



プラチナ、飛躍の道へ

鄧偉斌 WEIBIN DENG ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル アジア・パシフィック地域代表

コロナ感染症で前例のない打撃を受けた世界経済。高まるグローバルリスクを背景に財政・金融緩和策がプラチナを含む貴金属に資金流入を誘い、プラチナ投資の需要を押し上げている。

2019年にプラチナ総需要の15%だった投資需要は、2020年は21%に上昇するとみられている。2019年以前の6年間の投資需要は多い年で全体の11%を占めていたが、マーケットファンダメンタルズの改善により近年は伸びており、投資家らはプラチナの将来性に期待を寄せる。我々ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル(WPIC)は、2021年はプラチナ需要の世界的な伸びを受け、2016年以来の3年連続の供給不足になるという予測を立てている。

新型コロナウイルス感染症の拡大による経済の混乱はプラチナ市場にも様々な形で需給双方に影響を与えた。2020年の供給は感染症と南アフリカの転炉事故により生産が中断されて18%のマイナスとなった。一方需要の減少が5%に留まったのは経済の回復が予想以上に早く、投資需要が急増したことによる。これにより2020年の市場の供給不足は37.4トン、さらに2021年も6.8トン以上の不足と予測されている。

北米、欧州、日本のWPICパートナー各社からプラチナインゴットやコインの購入が2020年に急増したとの報告を受けている。同様に中国でもプラチナの安値への反応は大きく、上海黄金交易所(SGE)のプラチナ取引量は大幅な増加となった。

北米、欧州、日本のWPICパートナー各社によると2020年のプラチナインゴットとコインの購入は急増

これは工業セクターから宝飾品セクターに至るまで長くプラチナ製造に携わっている業者らが安値を利用して長短期的な恩恵を見越して在庫を増やした一方で、我々とパートナー各社の努力が実ってプラチナの知識が広まり入手しやすくなったことで、インゴットとコインの強い需要につながったとみている。

アジアにおけるWPIC

WPICは、世界第二位のプラチナ消費国である中国に投資市場を確立すべく2017年に包括的な戦略を携えて中国に参入した。最初に我々が取り組んだことはプラチナ市場に関するレベルの高い適切な情報

を中国の投資家に提供することだった。WPICは従来のメディアはもとより、ソーシャルメディア(Wechat, Weibo, Tik-Tok, Bilibili)やインターネットを利用して中国語で投資家に情報提供している。

次に取り組んだのは中国黄金協会を始め、Beijing Gold Economy Development Research Centre など国内の業界団体と戦略的な提携関係を結ぶことだった。このような提携関係のおかげで盛況を博している中国国内のゴールド投資市場の理解を深めてプラチナ投資市場の開発につなげ、また人材を適切に配置することが可能となった。ゴールドや貴金属に関する中国の主要なイベントにプラチナを加え、国内のゴールド投資家に対してプラチナの認知度を広めることができた。

最後に過去3年間にわたり、WPICは中国銀行(BOC)、Chunghai Platinum、Zijin Gold、Jingxin Gold、LPM Groupなど国内の様々な組織と投資商品に関する提携関係を結ぶことができた。Chunghai PlatinumとJingxin Goldに関しては、中国初の個人投資家向けのプラチナインゴットの製造と販売の援助を行い、その後の市場開拓と販売促進に関しても引き続き協力している。中国銀行は一般投資家にゴールドやシルバーの投資商品とともに、現物に裏打ちされたプラチナ取引口座を提供している数少ない銀行で、WPICのサポートによって同行の投資家向け講座にプラチナに関する内容が加えられた。我々はこれまでに中国で3000人以上の金融関係者にプラチナに関する知識とリスク管理方法についてトレーニングを行なった。中国銀行を通じたマーケティングは大成功を収め、取引量と現物保有量の増加は目を見張るものがあった。

WPIC主催の中国・蘇州市でのPGM サミットではPGM、特にプラチナの戦略的重要性と価値に焦点

WPICが2020年12月に中国・蘇州市で主催したPlatinum Group Metals summitでは、近年発展めざましい水素経済と燃料電池自動車における新しいエネルギー源や素材としてのPGM、特にプラチナの戦略的重要性と価値に焦点が当てられた。コロナ禍にもかかわらず、同サミットには400人以上の参加があり、さらに全世界から1万7千人がオンラインで参加した。ゴールド投資市場の成功に見るように、中国におけるプラチナ投資の市場規模は非常に大きい。市場インフラ、特に取引インフラはまだ未発達である。そのため、WPICは国内の組織団体と市場インフラの改善に取り組んでおり、プラチナ投資のためのマーケットエコシステムを開発した。

日本はプラチナインゴットとコインに関しては70年以上の取引の歴史があり、売り買い双方向取引が特徴の最も成熟した市場である。2020年は日本市場でも前例のない規模のプラチナインゴットとコインの需要があった。WPICは日本国内では田中貴金属と三菱UFJ信託銀行とパートナー関係があり、それぞれのプラチナ商品であるプラチナ積立とプラチナETFに関してのサポートを行なっている。さらに日本貴金属マーケット協会(JBMA)と提携し、日本語で我々のリサーチや情報を発信することで、プラチナの認知度と情報を広めており、これにより日本における機関投資家、個人投資家間でJBMAの存在感が高まっている。

2020年11月には増え続ける需要を背景にオーストラリア最大の独立系地金ディーラー、ABC BullionがWPICと提携してオーストラリア初となるプラチナインゴット商品の販売を開始。これはアジア太平洋地域におけるプラチナ投資需要の潜在的な成長を示す最新の動向だ。世界的に貴金属投資への関心が過去にないレベルに高まっている中、WPICは引き続きアジア太平洋地域にプラチナ投資を広めるべく、より多くのパートナー企業と協力しあっていきたいと考えている。

2020年11月、オーストラリア最大の独立系地金ディーラー、ABC BULLIONはWPICと提携して、オーストラリア初のプラチナインゴット商品の販売を開始し、増え続ける需要に対応

2021年の展望

脱炭素化とグリーン水素においてプラチナは重要な役割を果たすが、その需要が顕在化するのは今後5年から10年かかるだろう。しかしこれまでプラチナに見向きもしなかった多くの投資家はプラチナのこの潜在的価値をきっかけに、より長期的な需要に目を向け始めている。プラチナがゴールドとパラジウムに対していかに割安で効率的な投資であるか、またディーゼル・マイルドハイブリッド車がいかに低燃費であるかが広く認識されれば、プラチナ投資需要はさらに大きく増える可能性がある。

2020年3月19日にプラチナは599ドル、ゴールドは1474ドルとなる最安値を記録したが、それ以降8月までのプラチナの上昇率は55%と、ゴールドの33%を大幅に上回った。2020年のプラチナの投資需要の上昇と良好なファンダメンタルズを受けてプラチナ投資の魅力はさらに増していると言えるだろう。

WPICについて

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル(WPIC)はロンドンで2014年に大手プラチナ生産者らによって設立された。現在、会員にはアングロ・アメリカン・プラチナム、インバラ・プラチナム、Northam Platinum、Royal Bafokeng Platinum、Sedibelo Platinum各社を含む。WPICの使命は実行可能でターゲットを絞った啓蒙を通じてプラチナ現物に対する投資家需要を喚起すること、プラチナに関して投資家が判断材料として使える信頼性の高い情報を提供すること、金融機関や市場参加者と協力して投資家が必要とする商品や情報ルートを開発することである。

商品取引市場を始め主要な金融市場、投資商品開発者、ファンドマネジャー、銀行、ブローカーらと協力し合ってグローバルなプラチナ・マーケット・エコシステムの構築、プラチナ投資商品の開発、各地域で投資家にとって最適な情報ルートを広げていくことを目指している。例えば我々は、インゴットやコインといった投資家に身近な現物プラチナ投資商品に深く関わっている精錬業者、造幣局、卸売、小売などと提携している。このような提携を通じて世界の主要な投資市場で魅力あるプラチナ投資商品を投資家に提供できるよう努力している。



鄧偉斌 (WEIBIN DENG) WPICアジア・パシフィック地域代表。2017年にBNPパリバからWPICに入り、WPICの中国拠点として上海に開いた。それ以前はニューヨーク、シンガポールにおいてBNPパリバ、JPモルガン、クレディ・スイス、バンク・オブ・アメリカで16年間コモディティマーケットに関わり、BNPパリバでは非鉄金属と貴金属取引のためのコモディティ部門を設立した。